

Timeless Pieces



模様替え、衣替え、引っ越し。家の中のものを見直す機会は、しばしば訪れます。

それは、壊れたりサイズが合わなくなったり、今では使わないものなど、一つの役目を終えたものたちと対面する機会でもあります。数年前から「断捨離」という言葉が大ムーブメントとなったこともあり、片付け＝捨てるべきではないという考え方に陥りがちです。

しかし、断って・捨てて・離れるって何かかとても悲しい言葉。

元々は好きで欲しくて手に入れたものや、大切な人が大事にしていたもの、思い出が詰まったものなのに…。

これらを無理に捨てることは、逆にストレスになってしまうのではないのでしょうか。

まずは新しい使い方を考えたり、手を加えて修理したり、「捨てられていくものを生かす」ことを考えてみませんか？

《特集》

「捨てない」から始めよう

撮影＝堅山 哲 Satoshi Tateyama
撮影・文＝中西 理恵 Rie Nakanishi

修理を行う際は、解体できるところは一度すべて分解してから作業します。分解することで不具合の原因も症状の度合いも見えてきます。



自分好みに直す

古くなってしまったり好みに合わなくなったりした家具は、大型なので処分にも困る代表格。

そんな時は、直して再利用。も考えてみませんか？

鹿児島大学教育学部前にて、古い家具のリペアを中心に活動されているジャポニカセブンさんとお話を伺いました。



「昔から古いのが好きだった」という店主の岩元さん。お店のオープン当初は、ミッドセンチュリーの家具を扱うインテリアショップだった。ところが古い家具には、ガタつきや引き出しの開閉不良など、何かしらの不具合が付き物。また古いソファなどは、ハウスダストのない綺麗な状態でお客様に渡したい。アンティークを修理するのは邪道という考え方もありますが、オリジナルにこだわらず、使う人が自分の暮らし方に合わせて作り変えるのも良いのではないだろうか。そんな思いから買い手の希望を聞いて修理・補修を施したものを売るようになった。そうこうするうちに持ち込みの修理依頼が多くなり、家具の再生が今の今のスタイルに落ち着いた。

右上 / Furniture hospitalの文字が表すように、家具に関することなら何でも相談受け付けています。右下 / 壁に掛けられた椅子のフレームは、岩元さん曰く「誰も気づかないけど」実は売れ物。お好みの張地を選んでいただき、アンティークそのままの雰囲気を楽しみたい方から、新品同様に仕上げで欲しい方まで、お客様の要望に合わせてリペアします。左上 / ソファや椅子の張替えだけでなく、洋服のお直しや、オリジナルの帆布小物も制作・販売しています。左下 / オリジナルの帆布バッグも、強度にこだわ。「重さのある荷物を入れても底が沈まないよう、帆布を3枚重ねて頑丈に仕上げています」

◎家具オーダー実績 / 置きたい場所にぴったりのサイズ、お好みのデザイン、素材でオーダー家具も制作します。お客様よりご依頼いただいたオーダー家具の一部を紹介します。



右上 / ウォールナットと天然大理石の組合せでとても上品な感じに仕上がったダイニングテーブル。右下 / オールドマルニを枠だけ生かしてリペア。スプリングも昔ながらのやり方で固定し、クッション、座面を張替え。左上 / エイジングペイントしたテーブル。左下 / ヒノキの伸長式テーブル。脚は強度を持たせる為に、釘やネジを使わずに組んである。

も水分が抜けていくので変形してしまう。そうならないために、十分に乾燥した木材を使用する必要があるのだ。「最近の住宅は高気密に作られていて、エアコンを使っているので、室内は思ったよりも乾燥しています。うちで製作修理に使う木材は、天然乾燥と人工乾燥を組み合わせて、含水率10%以下のものを使用しています。」

また、家具には壊れるものと壊れないものがあるのだという。コスト重視で造られた家具の中には修理ができないものも増えている。やはり妥協せずに職人目線で造られたものは長持ちしますね。「家具を長く使うためにはどうすれば良いかということを考えている」と岩元さんは、釘やネジをなるべく使わない。修理に取り掛かる前に、まず一旦できる限り解体・分解します。それから収納してしまっただ接合部や欠落部分などを補修し、

新たな木を製作して再度組み上げていきます。グラつきを直そうと、安易に釘やネジボンドを使用することだけは避けて欲しいという。「根本的に修理できないのも、またすでに緩み、破損につながること。釘や接着剤をはがす作業も逆に手間がかかるので、何か不具合がある際は気軽に相談してください。」

ジャポニカセブン

<http://japonica7.chesuto.jp/>

住 / 鹿児島市鴨池1丁目24番15号(鹿児島大学・教育学部前) 問 / 099-255-2928 ※不定休のため、事前に電話連絡をおすすめします。

「金継ぎ」ってご存知ですか？

お気に入りの器が割れてしまって悲しい思いをしたことはありませんか？
器は割れたらおしまい…かと思ってしまうのですが、器にも素敵な修理方法があるんです！



～いろいろな仕上げ～

右上 / 白磁の上品な白と相性のよい金で仕上げた飯碗
右下 / 沖繩のやちむん、茶色のマカイ(飯碗)。金丸粉で仕上げました。元々の力強さや素材を引き立て、さらに魅力的な器となりました。
左上 / 黒い磁器を、シンプルに黒呂色漆で仕上げました。
左下 / 飛び鉤を施した小鹿田焼のお茶碗。柄を生かすように、一歩控えた銀を蒔きました。

割れたり欠けたりした器を漆で接着し、継いだ部分を金で装飾して繕うことを「金継ぎ」といいます。金継ぎは、安土桃山時代から江戸時代初期にかけての「茶の湯(茶道)」から始まった日本独自の修復技術で、蒔絵師が副業的に行うものだったという。当時の高価な器に対するもたない精神だけで生まれたのではなく、器の割れ目をあえて目立つように装飾することで、諸行無常の侘び寂びを感じ、傷を新しい「景色」として愛でるという、何とも日本的な美意識の表れです。金継ぎは数カ月の地道な工程を要します。しかし、割れや欠けという偶然が、世界に「ただけの宝物」に生まれ変わること魅了される方がじわじわ増殖中。知るほどに面白い金継ぎの魅力を紹介します。

漆で繕う

「金継ぎ」と言いますが、正確には漆で接着します。漆は「ウルシ」という木の樹液で、優れた天然の強力接着剤です。日本人は縄文時代から漆を使用していたそう。漆に含まれるラッカーという酵素が、空気中の水と酸素と反応して硬化します。一度乾くと再び溶けることはありません。酵素は生き物なので、加熱すると常温では硬化しなくなります。また、水と酸素を取り込んで乾燥硬化するため、固まるには温度(25℃程度)と湿度(85%程度)が欠かせません。乾燥させるために湿度が必要なんですね、とても不思議です。

近年、漆を使わずに、合成樹脂や接着剤で接着して、金の塗料で仕上げる簡易的な方法も紹介されていますが、天然素材である漆で繕えば、食材を入れる器として安心して使うことができます。
ただし、乾いていない状態の漆に触れると多くの場合かぶれます。取り扱う際は、必ず手袋をしましょう。

右 / 弁柄漆…酸化第二鉄が主成分の弁柄を混合した漆。粉蒔きの前の塗りや、仕上げに用いる。
中央 / 黒呂色漆…鉄分を加えて黒色にした黒漆。繕いの途中の下塗りの工程で用いる。漆仕上げの場合、仕上げにも。
左 / 生漆…漆の木から採った樹液を、何も加えずそのまま精製したもの。接着や下地に用いる。



破損部分の補修

【錆漆】さびのりし…生漆と砥の粉を水で練って作る漆のペーストです。小さな欠けや穴を補修するための充填用漆です。砥の粉は、砥石や黄土などを細かく砕いたもの。



【麦漆】むぎのりし…小麦粉と水を練ったものと、生漆を合わせて作る接着用漆です。上新粉と水を糊状に煮て作った米粉と生漆を合わせた糊漆(のりうるし)も同様です。
【室】むろ…漆を乾かすためには湿度が必要なので、乾くまでの期間は湿度を保った箱などの中で保管します。

ごく小さな傷の場合は、漆単体で十分補修することができますが、欠けや割れは前述の錆漆や麦漆、糊漆を使います。小さな欠けや穴は錆漆を使って埋め、室で5〜7日乾かした後、削って器との間に凹凸が無くなるように面をならします。1回で仕上げようと厚盛りせず、数回作業を繰り返して充填します。割れた器は、破片を麦漆や糊漆を使って接着し、室で3週間以上乾燥させます。その後ではみ出した漆を削り、欠けや穴は錆漆を充填し、その都度乾かして削るという作業を繰り返します。さらに呂色漆を塗っては乾かして研ぐ作業を2〜3回行います。

使う道具も自然素材

はみ出した漆を削るための研磨作業で大切なことは、漆だけ研いで器に傷をつけないこと。そんな研ぎ出しの作業に用いられるのが「トクサ」という植物です。木賊(トクサ)は、軸葉を傷つけずに漆のみ削り出すことができます。

金粉を蒔いたあと、磨き工程で使うのは「鯛牙(たいぎ)」。なんと鯛の歯です。この鯛牙が光沢がでるまで磨きます。昔の人はどんな時に、身近な素材が道具として使えることを発見したのでしょうか。



鯛牙で研ぐ

トクサで研ぐ

仕上げ

いよいよ仕上げです。ここまでの工程に最短でも1カ月、長いものでは3カ月〜半年かかります。金銀の他に、錫を蒔くこともあります。器のデザインや雰囲気、自分の好みや用途に合わせて選びます。漆の線をそのまま生かす、漆仕上げもありです。
その他「呼び継ぎ」という別々の器の破片をつなぎ合わせたり、漆だけでなくかすがいを使って継ぐ方法もあります。

器の割れや欠けは偶然によって生まれる形ですが、修理した跡も修理する人によってまったく異なる「景色」を描きます。単なる修理ではなく、傷や失敗を受け入れ、欠点に新たな美を感じ、風情と味わいを見出す。金継ぎは、日本人の美意識を感じる、奥深く粋な文化。ぜひ興味のある方は、市販の金継ぎキットなどを使って挑戦してみたいかがでしょうか。自分の手で修復すれば、かけた手間分、より一層愛着が生まれることでしょう。



「良いものをつかって 手を加えつつ 長く大切に住み継ぐ」
 ことは、まさにヤマサハウスのテーマです。



良いものを選んで、 手を加えつつ長く大切に使う

これらは家具や器だけでなく、住まいも同じ。手をかけ、自分たちが住みやすいようにカスタマイズしていけば、より居心地よく自分らしい暮らしを手に入れることができるでしょう。

物語を感じられる
 作り手の気持ちや由来に魅力があるなど、たとえ何か不具合があったとしても、物語があれば愛着が深まる。

安心してできる素材や成分でできている
 人や環境に負担をかけないモノでできているかどうか。

メンテナンス体制がしっかりしている
 手入れや修理をしやすいように、長期使用への工夫があるかどうか。



残せるものは残しつつ、好みや暮らし方に合わせて、時には以前の姿が分からないほどに変えてしまうのも良い。そうすることによって、これから先も長く使い続けていくことができます。



残せるものは残しつつ、好みや暮らし方に合わせて、時には以前の姿が分からないほどに変えてしまうのも良い。そうすることによって、これから先も長く使い続けていくことができます。

割れたり欠けたりしてしまった思い出の器や清水買いた大切な器などが、捨てるに捨てられず扉の奥で眠っていませんか？
 自分で修理できれば一番ですが、まずはプロに修繕をお願いしてみたいかをご紹介します。
 器の修理の取次を行っているお店をご紹介します。
 ただし、器の大きさや破損状態、仕上げの方法によって費用・期間は変動します。
 お見積り(無料)後に依頼されるかどうかご判断ください。

gallery shop & café Mono. <https://monoum.com> Instagram @inage_lzr
 住 / 霧島市牧園町持松2108-128(本店) ※オープン情報はHPやインスタでチェックしてみてください。みやまコンサート店は、特定のコンサートがある日のみ営業。



現在、霧島への移転に向け準備中の「Gallery shop & café Mono」。新規オープンには、5月中旬頃を予定しています。「にしかないものをコンセプト」、オーナー自らがセレクトした器や洋服、アクセサリー、革小物、靴を扱うショップです。「私が自信を一持っておススメできる商品しかありません！」というだけあって、店内には愛着を持って長く使い続けたいものもたくさんあります。「鹿児島ではここだけしか取り扱っていないブランドや、作家さんの作品を中心に置いています。実際に手に取って、自分だけのお気に入りを出会っていただけたら」。取り扱う商品の多くは1点もの、「せうかく選んでいただいたお気に入り」の器がもしも割れた時、修繕まで相談いただけるようにしたかったと、金継ぎの取次も行うようになったそう。カフェスペースでは美味しい珈琲やスイーツも楽しめます。オープンを待って、ドライブがてら新緑の霧島へ宝物を探しに出かけてみては？

上 / 鹿児島で活動する作家さんを中心とした陶器。シンプルなフォルムの中に、手仕事の温かみや便しさを感じるデザインが魅力的。 右下 / 繊細かつ存在感のある、金・銀・真鍮を使ったアクセサリー。 左下 / 着心地にこだわり、長く着続けられる大人のためのシンプルウェアが揃う。

OGINNA <http://store.oginna.com> Blog <http://oginna.blogspot.jp>
 住 / 鹿児島市市元3-8-13 営 / 11:30~19:00 or 11:30~17:00 ※曜日により営業時間が異なります。HPよりご確認ください。 問 / 099-296-1227

郡元と深橋電停の間、電車通りから少し入り込んだビル1階にあるOGINNA(オジーナ)。小石原焼や小鹿田焼、沖縄のやちむんなど民芸の器を中心に、肌触りの良い服や、経年変化を楽しむ木工品・竹細工など、使い心地がよいもの、使っていくうちに愛着がわいていくものを取り扱っています。「陶器は、一つ一つの色や釉薬の出方が違うところに温かみを感じます。素材にこだわり、思いをこめて作られた、いもの、を届けたい」と思っています。手仕事から生まれる器は、毎日の料理と食事を、きっと楽しくしてくれます。一杯一杯ハンドドリップで淹れる珈琲も、こだわりの一つ。「珈琲を飲みながら、気軽にふらっと立ち寄ってくださるの、ただただいい。OGINNAでも器の修繕依頼を取り次いでいるので、もしも時はご相談ください。」



九州・沖縄の陶器やガラス、アパレルなど、実用的で長く使えるようなものが所狭しと並ぶ店内